科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	生態人類学Ⅰ Ecological Anthropology I			担当者所属 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 木村 大治 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(基礎)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	火2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

生態人類学とは、自然環境と人間生活の相互関係を研究する人類学の一分野である。本講義では、担当教員たちの長期にわたるフィールドワークの経験をとおして、アフリカの熱帯雨林(木村担当)、乾燥疎開林(伊谷担当)、サヘルの半乾燥地(大山担当)という三つの異なった環境における農耕民の生態・社会・文化の動態について論じる。

[到達目標]

人類の生活と生存について，その基盤から考える視点を得る。

[授業計画と内容]

担当: 木村大治
第1回 生態人類学とは何か、人類史における農耕の位置づけ、アフリカ農業の特徴
第2回 熱帯雨林における焼畑農耕 (1) 焼畑農耕活動の実際
第3回 熱帯雨林における焼畑農耕 (2) 二次林の循環的利用
第4回 熱帯雨林における狩猟・漁撈・採集活動
第5回 コンゴ内戦後の困難に対する農耕民たちの対応

担当: 伊谷樹一
第6回 アフリカ半乾燥地域の自然
第7回 自然とともに暮らす人びと
第8回 変容するアフリカ
第9回 環境を守る試み

担当: 大山修一
第10回 ITCZと西アフリカのエコロジカル・ゾーン
第11回 半乾燥地における農耕民の暮らし
第12回 なぜ、人口増加は起こるのか
第13回 農耕民と牧畜民の共存と相克
第14回 生態人類学と社会貢献

第15回 期末試験
フィードバック方法は別途連絡します

[履修要件]

特になし

生態人類学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

生態人類学Ⅰ(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末の試験により評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

木村大治・北西功一（編）『森棲みの生態誌』（京都大学学術出版会）ISBN:9784876989522（アフリカ熱帯林に住む人々の生活について解説している。）

掛谷誠・伊谷樹一（編）『アフリカ地域研究と農村開発』（京都大学学術出版会）ISBN: 9784876989898（アフリカ乾燥疎開林のにおける農村開発の記録。）

大山修一(著)『砂漠化に挑む－ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防』（昭和堂）ISBN: 978481221436（サヘルの農耕民と，砂漠緑化の試みについて書いた近著。）

高村泰雄・重田眞義（編）『アフリカ農業の諸問題』（京都大学学術出版会）ISBN:4876980543（アフリカの農業についての展望を得ることができる著書。）

（関連ＵＲＬ）

http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/africa_division/

[授業外学修（予習・復習）等]

講義を聴いて興味を持った事項について，図書，ホームページ等で自ら調べること。関連する図書，ホームページについては講義中に適宜指示する。

[その他（オフィスアワー等）]

人類学，生態学，農学，環境問題、開発，フィールドワークなどに関心をもっている学生諸君を対象とする。スライドやビデオを活用する予定。

[主要授業科目（学部・学科名）]